

令和3年度

福田与志先生 追悼式

ふくだよしせんせい

ついとうしき



紙芝居画
池尻都先生



作画
ないとうあかね
内藤愛兼さん

追悼式(ついとうしき)とは

- 一昨日の11月28日は、本校の創立者である福田与志先生の命日(めいにち:なくなられた日)でした。
- 松江ろう学校のみなんで与志先生の功績(こうせき:すばらしい仕事の成果)をふり返って、しのびたいと思います。

与志先生がろう学校をつくられたきっかけ

- 今から**130年前の明治**のことです。
- **与志先生**は子どもが好きで、**18歳**のときに、松江市の本庄（ほんじょう）小学校の先生になりました。



与志先生がろう学校をつくられたきっかけ



- そこで、学校に行けない女の子との出会いがありました。

与志先生がろう学校をつくられたきっかけ



- **女の子**は勉強することができず、また友だちとも思うように遊べなくて、**一人で小さく**なっていました。



女の子の名前は**石橋ハル**さん。
耳がきこえませんでした。

与志先生がろう学校をつくられたきっかけ

- 明治(めいじ)の時代は、障がい者に対する差別(さべつ)や偏見(へんけん)があり、勉強は無理、必要なしとされて、盲学校やろう学校はありませんでした。
- また、どこの小学校にも通わせてもらえませんでした。

与志先生がろう学校をつくられたきっかけ



- 与志先生は心を痛めて悲しまれました。

与志先生がろう学校をつくられたきっかけ



- そこで、何とかしたい、みんなと同じように勉強させたいと思い、ハルさんをよんで勉強を教えました。

与志先生がろう学校をつくられたきっかけ

- **ハルさん**は、初めて学ぶことができ、どんなにか喜んだことでしょう。



そんな**ハルさん**を見て、**与志先生**は、もっと上手にことばや勉強を教えられないかと思ったことでしょう。

与志先生がろう学校をつくられたきっかけ



- そのために、きこえない子どもを教える知識と技術を学びたいと、兄の平治さんに相談しました。

与志先生がろう学校をつくられたきっかけ

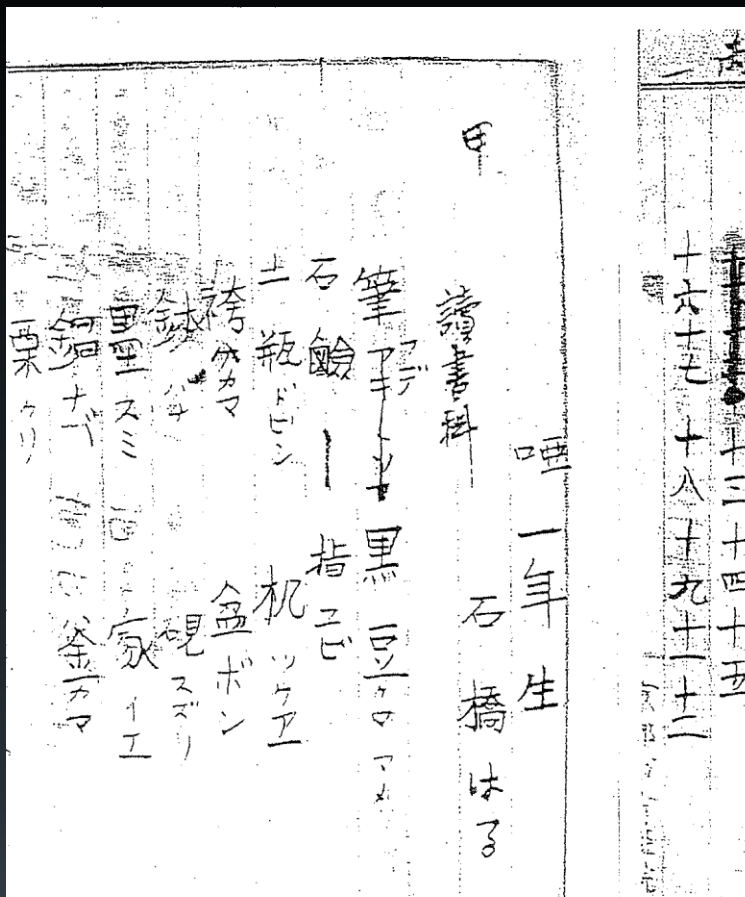
- 与志先生は平治さんにすすめられ、8年間つとめた本庄小学校の教員をやめて、遠い京都盲啞院(もうあいん)へ行って、きこえない子ども
の教育を学ぶ決心をしました。





京都盲啞院(もうあいん)で子どもに教えている与志先生。情熱をもって教え、学校の中で指導者も育てられる先生になりました。

13歳のハルさんもいっしょに行きました



ハルさんは、日本語の力を身につけ、裁縫（さいほう）も上手（じょうず）で、立派（りっぱ）な成績（せいせき）をおさめたそうです。

13歳のハルさんもいっしょに行きました



ハルさんは、日本語の力を身につけ、裁縫（さいほう）も上手（じょうず）で、立派（りっぱ）な成績（せいせき）をおさめたそうです。

松江私立盲啞(もうあ) 学校の設立へ



- そうして、与志先生は京都や東京で6年間教員をしながら学び、33歳のときに松江に帰ってきました。
- そして平治さんの協力を得て、本校の前身である松江私立盲啞(もうあ)学校を設立されました。
- 明治38年5月20日に開校しました。
- 場所は松江市母衣(ほろ)町、今の裁判所(さいばんしょ)の近くです。

松江私立盲啞(もうあ)学校の設立へ

- 民家(みんか)の部屋を借りての開校でした。
- 入学したのは11名の子ども、先生は校長先生の与志先生を入れて3名でした。
- 全国で11番目の盲啞学校でしたが、初めての女性による創立でした。中国四国では初めての学校でした。

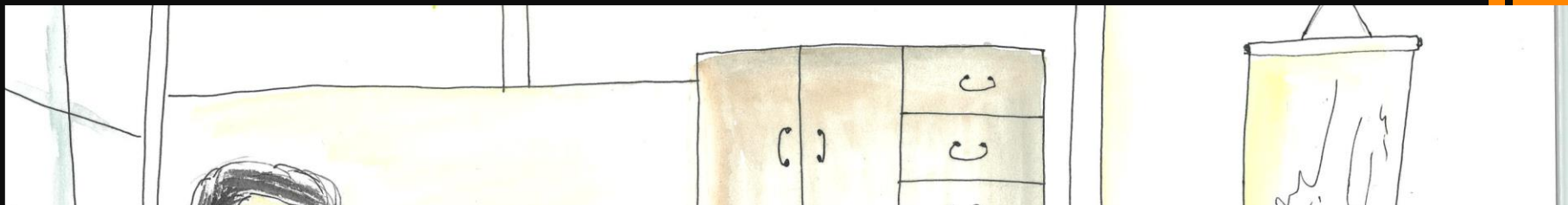
苦しかった経営

- しかし、**学校の経営は苦しく**、県に補助(ほじょ)のお願いを何度もされましたが、よい返事をもらえませんでした。
- そこで、**寄付(きふ)**を集めに回り、自分の給料や財産をすべて投げ打って、子どもたちの教育や生活に力を注(そそ)ぎました。

苦しかった経営 寄付のお願いに回る与志先生



苦しかった経営 寄付のお願いに回る与志先生



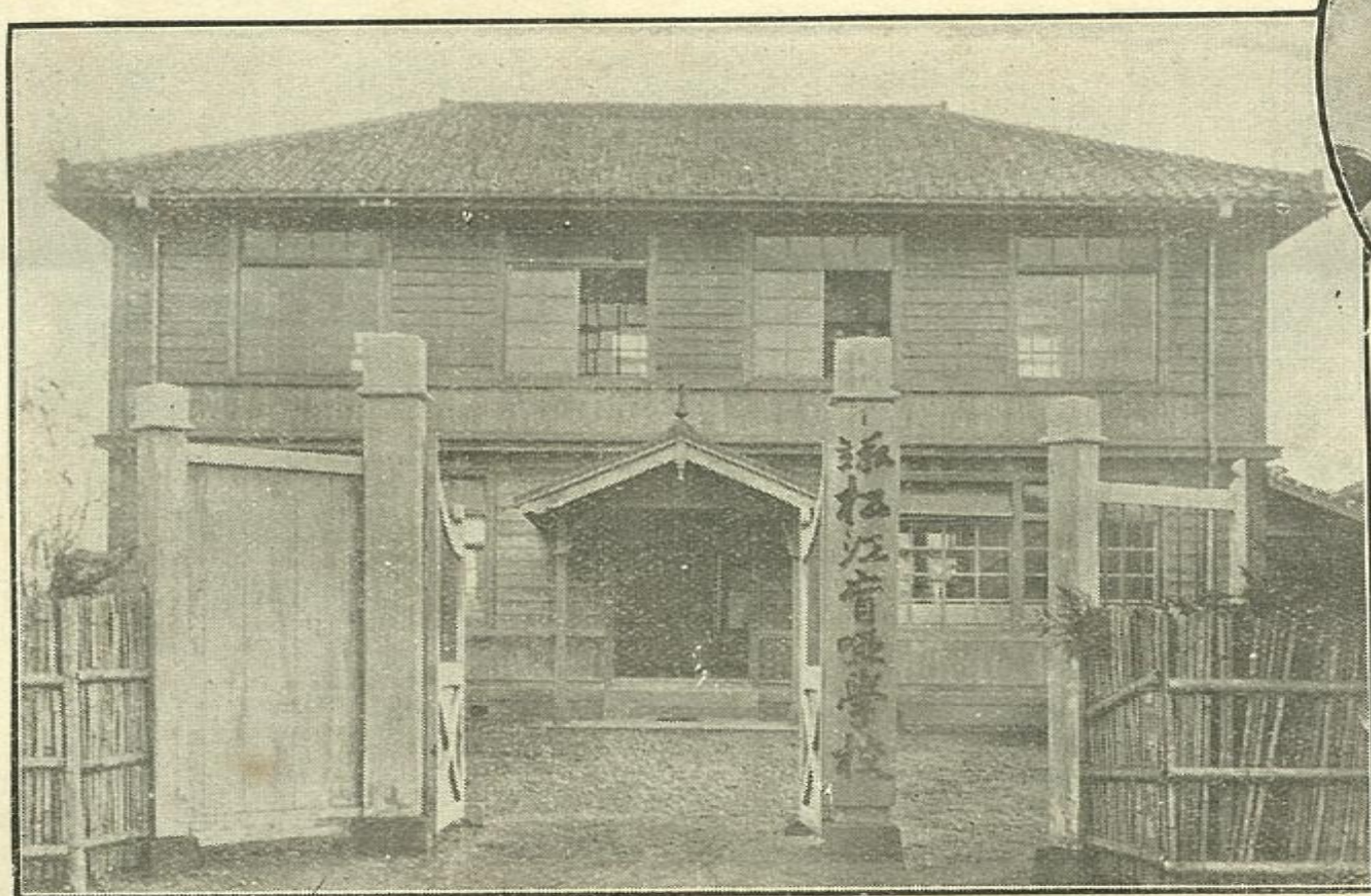
苦しかった経営 寄付のお願いに回る与志先生



周りに認められてきた盲啞学校

- 与志先生は、盲やろうの子どもも、教育を受けることで一人前に伸びることを知ってもらうために、学校で自分の授業を見てもらったり、子どもを連れて講演に回ったりして訴えました。
- こうして、少しずつ人々の理解が広がりました。
- そして、国や県の補助が受けられるようになり、新たな校舎と寄宿舎が建てられました。

松江市外中原にできた新校舎
明治44年(1911)
子ども36名 先生8名



故福田女史

周りに認められてきた盲啞学校

- ようやく与志先生の願いが実を結び、花開き始めたのです。
- ところが、新しい校舎が建った翌年、
- これからもっと専門の授業を充実させていきたいと思っていたところに、不幸がおこりました。

与志先生 逝(い)く

- 与志先生は重い病気にかかり、一か月あまり病床(びょうしょう)につきました。
- 与志先生は自分のお金だけでなく、生活のすべてをかけて、寄宿舍で子どもと共に寝起きしていました。

与志先生 逝(い)く



与志先生 逝(い)く

- 『君は逝(い)きけり 氷雨(ひう)の
夜に』

みぞれの降る寒い夜、与志先生は
寄宿舎の一室で、子どもたちに見守
られながら帰らぬ人となったのです。



大正元年11月28日
まだ40歳の若さでした。



大正元年11月28日
まだ40歳の若さでした。

与志先生の愛の精神をしのぶ

■『教え子おもう ひとすじに』

生徒のために一生けんめい尽くされた
与志先生は、とてもやさしい愛の精神
(せいしん)を もたれた先生でした。

■本日は、このおおもとを築いてくださった
与志先生に対して、明治の大変な
時代の先生のご苦勞に思いをはせ、
その情熱的な愛の精神をしのんで、心
から感謝したいと思います。

与志先生の愛の精神をしのぶ

- 松ろう祭では、中学部生徒が与志先生やハルさん、明治の人たちを一生けんめい演じてくれましたね。
- 劇のなかで、「今、私たちが当たり前にしてしている学校生活」は、与志先生がハルさんと出会った130年前にきっと「思い描いていた理想の世界」であり、「なりたい自分」を発表して、今をよりよく生きていく決心をしました。

与志先生の愛の精神をしのぶ

- 小学部、中学部、高等部のみなさんには、コロナ禍(か)や、変化の激(はげ)しい時代ですが、ぜひなりたい「自分の夢(ゆめ)」を描いて、その実現(じつげん)に向かっていく人になってほしいと思います。
- 与志先生が空からみなさんを見守ってくださっています。

手と心 でつながる

わかりあえる喜び

～笑顔あふれる松ろう～



手と心でつながる

わかりあえる喜び

～笑顔あふれる松ろう～



手と心でつながる

わかりあえる喜び

～笑顔あふれる松ろう～



手と心でつながる

わかりあえる喜び

～笑顔あふれる松ろう～



